

最後まで抵抗「すごい娘だった」 闇サイト殺人事件、語り続ける母

藤牧幸一 2022年8月22日 11時30分



事件から15年経つのを前に、心境を語る磯谷富美子さん



[名古屋市千種区](#)で2007年8月に起きた「[闇サイト](#)殺人事件」は24日で発生から15年を迎える。「娘の死を無駄にしたくない」。長女の利恵さん（当時31）を亡くした磯谷富美子さん（71）は今も深い悲しみを抱えながら、事件が忘れられないように語り続けている。

「受け入れたくない気持ちは15年経っても変わらない。娘のことを考えない日はなかった」磯谷さんは事件の現場で祈りを捧げたいと思いつけているが、今は近づくことすら出来ないでいる。警察署で対面した利恵さんの変わり果てた姿、犯行の陰惨さ……。現場に行けば当時の記憶がよみがえってしまうのではないかと。時間が経つほど、それが怖くなった。

利恵さんは会社からの帰宅途中、自宅まで約100メートルの路上で金を奪う目的の男3人に車で連れ去られた。車内で頭をハンマーで殴られるなどして殺害され、遺体は[岐阜県瑞浪市](#)の山林で見つかった。

日々の生活の中でふとした瞬間に、利恵さんの無念に思いを致すことがある。利恵さんは、カードの暗証番号を聞き出そうとする犯人に繰り返し包丁で脅されていた。しかし、好んでいた[語呂合わせ](#)でとっさに「ニ・ク・ム・ワ」と読める「2960」とうその番号を答えた。「3人の男に囲まれて、どれだけ怖かったか。その中で最後まで抵抗をしていた。想像していたよりもずっと、すごい娘だった」

裁判で3人の極刑を求める署名集めを続ける傍ら、事件を風化させないための講演も全国各地で始めた。「被害者やその遺族が受ける苦しみに見合った刑罰が犯人に与えられていないのでは」「[犯罪被害者](#)らへの経済的支援は十分とは言えない」……。警察署や学校などで訴え、講演はこれまでに100回近くを数える。

「誰が被害者になってもおかしくない世の中。誰もが、まさか私が、とあって過ごしている。

私たちの事件を知ることで、同じような被害者が出ない世の中になってくれれば」。コロナ禍で講演の機会は減ったが、命の大切さや利恵さんへの思いなどを語り続けていくつもりだ。(藤牧幸一)

犯罪加担募る場 SNSに

「日給 15 万～50 万円のお仕事を紹介してます!」。高額な報酬をうたって犯罪に加担させる「闇バイト」を募る投稿が SNS 上にあふれている。

昨年 10 月、名古屋市内の住宅で高齢女性を襲って現金を奪ったとして 20 代の男 3 人が逮捕された。事件のきっかけは、闇バイトの募集だった。犯行に絡む連絡は、一定時間が過ぎるとやり取りが消える通信アプリ「テレグラム」を使っていた。こうした闇バイトを巡る刑事事件は後を絶たない。

[立正大学](#)の小宮信夫教授(犯罪学)によると、07 年の闇サイト殺人事件の発覚後、[プロバイダー](#)は同種のサイトを次々に閉鎖した。だが、それに代わって SNS が使われるようになったという。小宮教授は「SNS 上では隠語を用いて仲間を募ることが多い。匿名性もあり、犯罪に手を出す心理的なハードルが下がっている」と指摘する。

警察も対策に乗り出している。[特殊詐欺](#)の「受け子」などを募る投稿に対し、[愛知県警](#)は 19 年に「このツイートは詐欺の実行犯を募集する不適切な書き込みのおそれがあります」と警告を返信する取り組みを始めている。

逮捕の 3 人 既に量刑確定

闇サイト殺人事件 2007 年 8 月 24 日夜、名古屋市の路上で磯谷利恵さん(当時 31)が拉致され、その後に殺害され、岐阜県内に遺棄された。逮捕された男 3 人はインターネットサイト「闇の[職業安定所](#)」で知り合い、犯行に及んだ。1 人が死刑(15 年に執行)、残り 2 人は[無期懲役](#)が確定した。